

聖歌 180 主はよみがえり

Christ ist erstanden

2015/03/22 井田

1. 歌詞は古く 11 世紀のラテン語聖歌にさかのぼる。それがドイツ語で歌われるようになり、ミヒャエル・ヴァイセによって整えられ、マルティン・ルターにより会衆全体で歌うコーラルとなった。宗教改革の息吹を強く帯びた聖歌。
2. 曲はヴィッテンベルク（ルターの宗教改革の中心となった都市）で編集された *Geistliche Lieder 1533*（霊的歌集）から。ハンス・レオ・ハスラーが編曲。
3. ドイツ語の歌詞はおよそ次のとおり（版によって多少の違いがある）。

キリストはよみがえられた すべての責め苦から
わたしたち皆これを喜ぼう キリストがわたしたちの慰めとなってください
 キリエ ライス（主よ、憐れんでください [キリエ・エレイソンが変化したもの])
キリストがよみがえられなかったなら 世界は消え失せていただろう
彼がよみがえられたのだから わたしたちは主なるキリストを賛美する
 キリエ ライス
ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ
わたしたちは皆これを喜ぼう キリストがわたしたちの慰めとなってください
 キリエ ライス（主よ、憐れんでください [キリエ・エレイソンが変化したもの])
4. 深い静けさから復活の喜びがわき上がる。それを味わうためにゆったりと歌うとよい。
5. 冒頭の「主は」を大切に。
6. 1 節の「くさりを放つ」はイエス・キリストご自身のことであるとともにわたしたちの解放が含まれている。
7. 2 節になると「罪を赦して……」によりわたしたち自身の救いが歌われていることがはっきりする。
8. 「ハレル」は「ほめたたえよ」。「ヤ」は「ヤハウエ」（神の固有名詞。普通「主」訳される）の略なので「ヤ」を大切に歌う。「ほめたたえよ、主を」。
9. バッハはこの歌詞の一部を教会カンタータ第 66 番の第 6 曲に用いた。
またバッハは BWV276（4 声コーラル）、BWV627（オルガン小曲集）にもこの曲を用いている。

2. Wittenberg, 1533

Christ ist erstanden
Wittenberg, 1533

